

運用容量算出における 課題の検討について

2018年 5月10日

- ◆昨年度検討条件や課題について運用容量検討会において検討を行なってきた。今年度も引き続き、中・長期的課題について検討を行う。
- ◆検討条件に関して出た要望に対して対応を審議し必要に応じ課題の追加や進め方の見直しを行う。
- ◆今年度の検討結果は、12月の運用容量検討会にて取り纏めることとし、今年度完了しなかった件名については、次年度以降検討することとする。

1. 運用容量算出における課題

		今年度の課題	内 容	幹事
1	継続	周波数上昇限度の考え方整理	<ul style="list-style-type: none">周波数上昇限度や無制御潮流の考え方を整理	九州
2	継続	周波数維持限度値算出における需要算出方法変更への対応	<ul style="list-style-type: none">需要想定方法の整理（実績との乖離をどう減少させるか）需要の算出方法が発電端ベースから送電端ベースへ変わっており、見直しの要否を検討（昨年度整理済み）	関西
3	新規	EPPSの織込みの整理	<ul style="list-style-type: none">FCのEPPSは60万kW1段動作に整定変更したことから、織り込み量の考え方を整理✓中西周波数低下事象への対応として暫定的に60万kWとしているが、今後の取扱いを検討✓作業停止時はEPPSを暫定的に考慮し運用容量を維持するとしているが、今後の取扱いを検討	関西
4	新規	フリンジの算出方法の見直し	<ul style="list-style-type: none">フリンジについては近年増加の傾向がみられるため、傾向を分析。例えば昼間帯、夜間帯に分けて算出するなど細分化等により下がる断面がないか検討	広域

2. スケジュール

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
運用容量検討会	▲				▲			▲
周波数上昇限度の考え方整理	周波数上昇限度の考え方の整理							
周波数維持限度値算出における需要算出方法変更への対応	需要想定方法の整理							
EPPSの織込みの整理	暫定の取り扱いの検討（作業停止時含む）							
フリンジの算出方法の見直し	現状の把握				算出方法細分化要否検討			